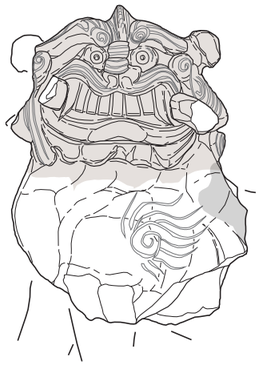


西二葉町遺跡 地元説明会資料

開催日時　令和6年9月14日(土)・15日(日)

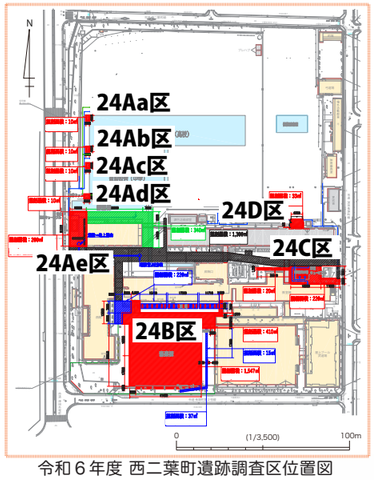
調査主体　公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

調査支援　安西工業株式会社

今回の調査・説明会開催には、明和高等学校および戸田建設株式会社の皆さまの格別なご配慮を頂いております。

調査の経緯

西二葉町遺跡の一角にある県立明和高等学校敷地内では、令和六年度からの愛知県教育委員会財務施設課による校舎建築工事に伴う事前調査として、愛知県県民文化局より委託を受けて、本発掘調査を行っています。初年である今年度の本調査は、左図の赤色の区域の二四七〇平方メートルを対象に、五月から十一月中旬までの予定で実施しています。これまで24D区、24A区と調査は進み、現在は24B区の調査を進めています。



令和６年度 西二葉町遺跡調査区位置図

西二葉町遺跡について

西二葉町遺跡は、名古屋市東区白壁に位置する遺跡で、その範囲は、県立明和高等学校敷地から北東に鎮座する七尾天神社方面に広がっています。当地は特別史跡名古屋城跡および名古屋城三の丸遺跡の東に位置しています。現地表の標高は一五・五メートル、名古屋台地が北側に向かって傾斜する台地の崖ぎわ付近に立地しています。

『新修 名古屋市史 資料編 考古2』（平成二五年刊行）によると、西二葉町遺跡は当地の考古学の先鞭・吉田富夫が「古墳時代聚落址」とした二葉町遺跡に当たるようです。加えて、明和高等学校敷地全体には成瀬隼人正中屋敷が所在していたことが以前から知られていました。令和五（二〇二三）年七月に、愛知県埋蔵文化財調査センターによる試掘調査の結果、確かに埋蔵文化財の存在が確認され、今回、学校校舎建築に伴って本調査が実施されることとなりました。西二葉町遺跡での本調査は、今回が初めてとなります。

これまでの調査成果

これまでの調査では、以下の時代の遺構・遺物が見つかっています。

一、古墳時代から古代（奈良・平安時代）
二、戦国期【那古野城関連遺構か】
三、近世（江戸時代）【成瀬隼人正中屋敷】
四、近代から現代（明治時代以降）【愛知県第一中学校・名古屋帝国大学・県立第一高等女学校・明和高等学校】

特に注目されるのは、近世（江戸時代）成瀬隼人正中屋敷の様相が発掘調査で良好に確認されたことです。屋敷建物跡・井戸のほか、盛土や整地層、廃棄土坑などが見つかっています。また、近代以降の学校校舎跡は、愛知県における中等・高等教育史を考える上での貴重な資料といえます。

毎月の調査の様子は、『西二葉町遺跡発掘通信』で随時お知らせしています。下のQRコードよりアクセスできますので、よろしければ是非合わせてご覧下さい。

発掘通信

近代から現代の学校変遷について

尾張藩への土地返上に伴い、当地は明治初期に更地になったと言われています。その後いろいろな経緯を経て、明治三十年代末以降、学校用地としての利用が現在に至るまで継続しています。戦前の旧制愛知県第一中学校や名古屋帝国大学、戦後すぐの県立第一高等女学校、明倫高等学校との統合による県立明和高等学校の設立、音楽科の創設、創設当初の県立千種高等学校の同居、さらには現在の中高一貫校の設立と、当地は、愛知県の中等教育・高等教育の変遷の歴史を象徴する場所であり続けています。調査では、これまでの学校関連の遺構・遺物も見つかっています。

明治期以降の当地の土地利用変遷については、『西二葉町遺跡発掘通信』の二号でごく簡単に紹介しています。是非合わせて、ご覧下さい。

発掘通信2

「愛知一中」銘 湯飲碗【試掘・24C区付近】

愛知県第一中学校校舎基礎【24D区】

学生制服ボタン【24B区】

名古屋帝国大学学生食堂基礎【24B区】

「和楽会」銘 湯飲碗【24B区】

県立第一高等女学校校舎基礎【24Ae区】

古墳時代から古代の遺構・遺物

古墳時代から古代（七世紀以降）の遺構・遺物は、24Aa区および24B区で見つかっています。24Aa区では、炭化物を多く含む活動面を確認しており、これが竪穴建物跡の床面であった可能性があります。一方、24B区では近世の柱穴や井戸内から、須恵器杯身・高杯脚部が出土しています。また、近世の整地層内からは、土馬が出土しています。土馬は古代（奈良・平安時代）を中心に、雨乞いなどの祭祀の場面で使用されたものと言われています。祭祀の際には脚部を欠損させていたとも言われており、今回見つかった資料も同様な状態となっています。

活動面と土師器・須恵器【24Aa区】

須恵器高杯脚部【24B区】

土馬【24B区】

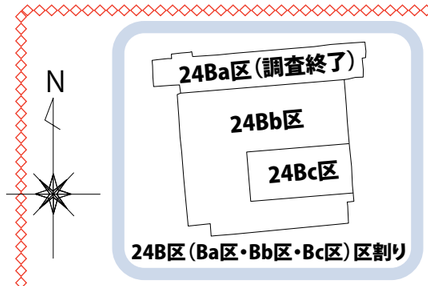
西二葉町遺跡地元説明会資料　令和6年9月14日配布

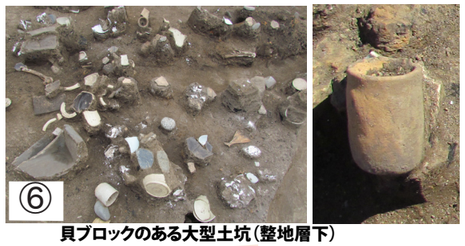
編集・発行　公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター　川添和暁

〒498-0017 愛知県弥富市前ケ須町野方802の24
電話（0567）67-4161【管理課】4163【調査課】
ホームページ http://www.maibun.com
Facebook https://www.facebook.com/maibunaichi
Instagram https://www.instagram.com/aichimaibun/
X https://twitter.com/aich

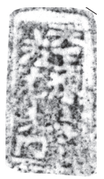
調査支援・印刷　安西工業株式会社

あいち埋文



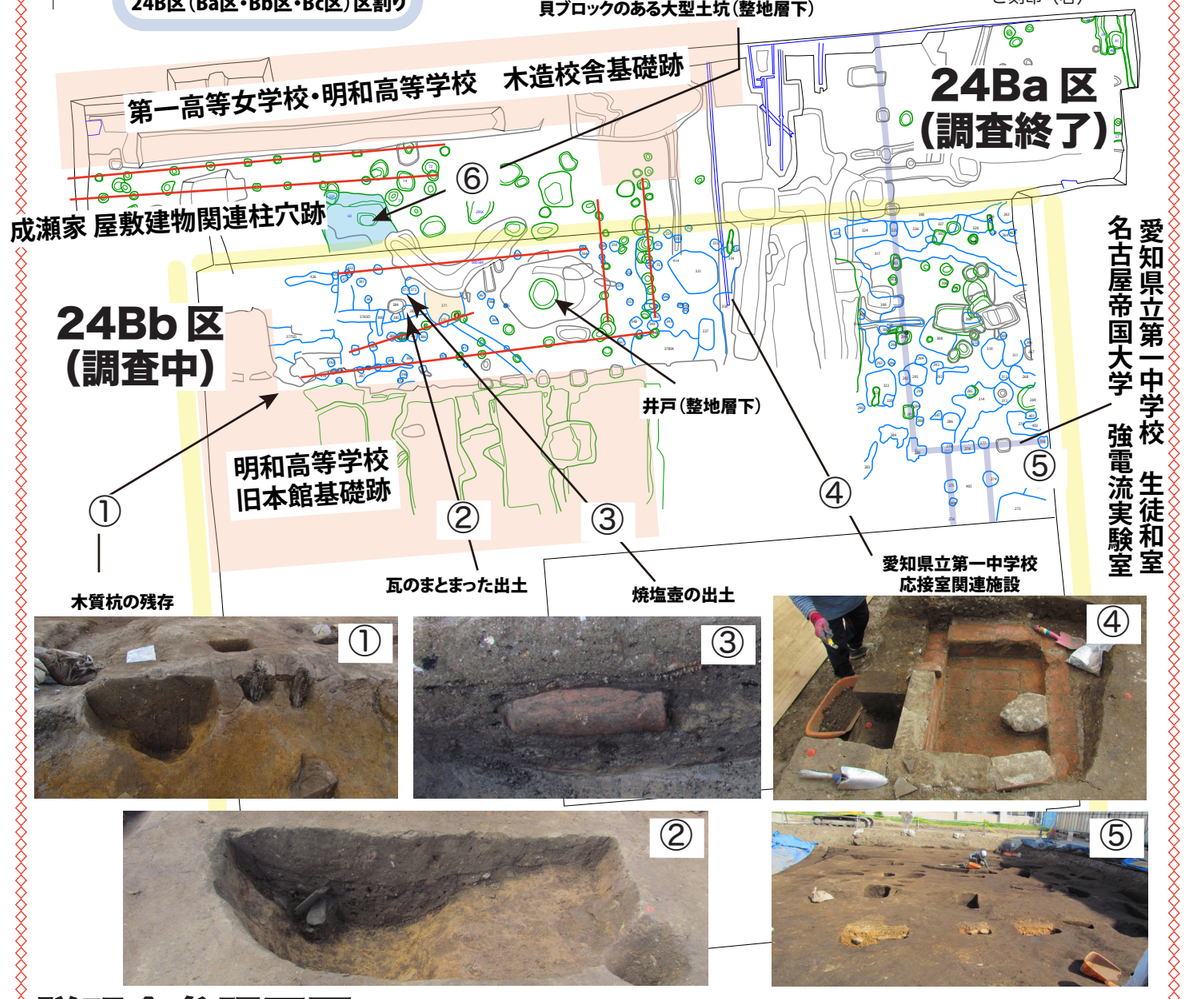


貝ブロックのある大型土坑（整地層下）



天下一堺ミなと
藤左衛門

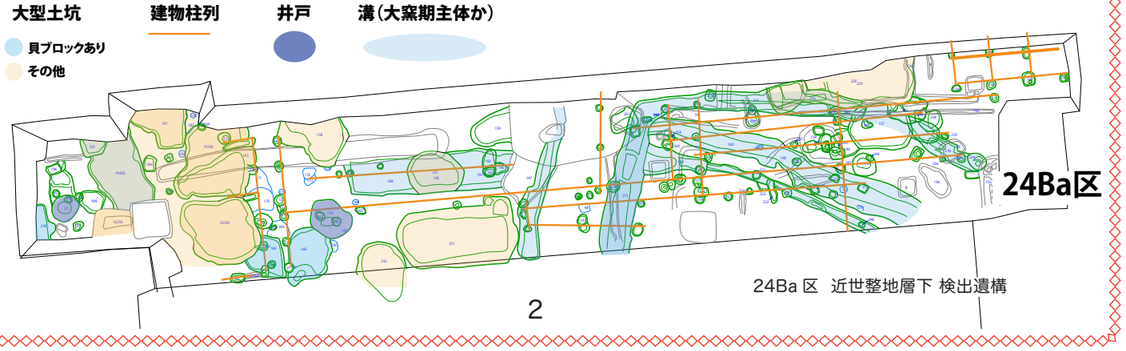
出土した焼塩壷（左）
と刻印（右）



説明会参照図面

24Ba 区・24Bb 区　近世整地層上 検出遺構

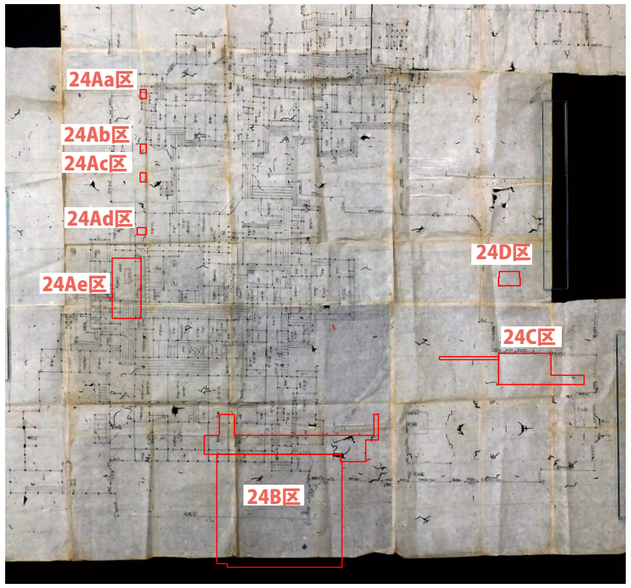
0　（1 / 300）　10m



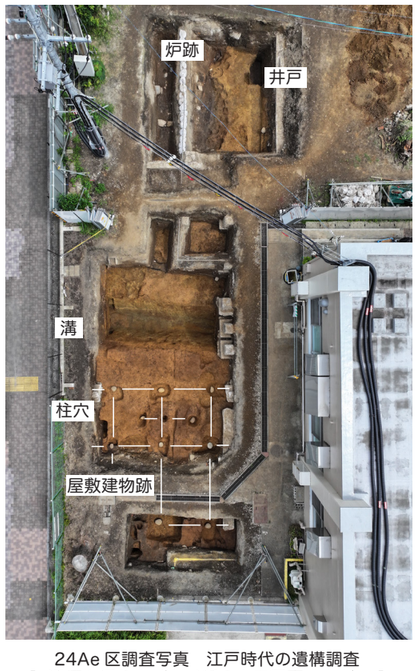
24Ba 区　近世整地層下 検出遺構

江戸時代 成瀬隼人正中屋敷について

成瀬隼人正中屋敷関連の遺構は、これまでの調査区全体で確認されています。建物跡である掘立柱建物跡は、24A区および24B区でまとまって見つかっています。建物跡は大きな河原石を根石にした掘立柱の構造となっており、同じ場所に何度も立てられた様子を見ることができます。遺構としては井戸のほか、24A区と24B区では、江戸時代の整地層（盛土）が良好な状態で確認されています。大きな坑を掘って陶器などの廃棄後に埋められることもあり、24Ae区や24B区では、貝殻を多く含む場所も確認されました。24Ba区では、貝殻のほか、タイ科などの魚骨、鳥骨とともにシカの部分骨が出土しています。ここでは多量の陶器のほか焼塩壷（やきしおつぼ）といわれる素焼きの容器も出土しており、ゴミなどを廃棄したものと考えられます。24Ae区では、カマドと考えられる火床（炉跡）が見つかっています。24D区では多量の瓦が廃棄された堆積層が見つかりました。恐らく明治初頭に屋敷地が解体されならした時に形成されたものと推定されます。



令和６年度西二葉町遺跡調査区と成瀬隼人正中屋敷位置図（ 縮尺 1/2,000 ）
【 屋敷絵図面は、公益財団法人 犬山城白帝文庫蔵】
絵図面の作成および記載対象物の年代は不詳ですが、屋敷地の基本的な構造は、江戸時代を通じて大きな変化は無かったようです。絵図面では24Ae区の北端にあたる場所にはカマドの印しがあります。今回の調査では、板石で構築された火床が見つかっており、絵図面の内容を裏付けることができています。



24Ae 区調査写真　江戸時代の遺構調査
【 遺構を掘り上げた状態の上空写真　上が北 】
柱穴、溝、井戸、炉跡などの配置がよく分かります。

24Ba 区 全体写真【 上が東、体育館側 】
写真左は近代整地層下面での遺構掘削状況 、
写真右は近代整地層上面での遺構掘削状況 です。